

## がん看護がめざす禁煙支援の重要性に関する文献検討

○和田菜々子（北里大学病院），元井好美（関西医療大学）

### I. はじめに

国立がん研究センター(2018)の報告<sup>1)</sup>によると、がん罹患者のうち男性で30%、女性で5%、がんによる死亡では男性で34%、女性で6%はたばこが原因と考えられている。また、がん患者が喫煙することは二次がんの原因になることが明らかにされており、禁煙への重要性を示唆しているものの、患者の禁煙継続は困難な状況にあることを述べている<sup>2)</sup>。そのため、長期的な禁煙への忍耐度、がんや生活習慣病リスクへの慎重度を喫煙者自らが意識的に高めていけるように支援することは重要である。本研究の目的は禁煙支援の重要性とその取り組みを明らかにする。

### II. 研究方法

1. データ収集方法：研究デザインは文献検討で医学中央雑誌 web 版（Ver.5）を用いた。検索条件は2020年4月29日時点のもので、表題か抄録に「腫瘍 or がん」「タバコ喫煙 or 喫煙」「支援」の含まれた原著論文を選び、著作権の範囲内で複写、出典を明示し引用方法に留意し、医中誌 Web 版の正当に契約された範囲内でアクセスを実施した。
2. データ分析方法：原著論文の分類で対象文献の一覧表を作成し、それぞれ学会名、研究デザイン、研究目的、対象、研究方法、結果・結論に整理し、内容別に分析した。

### III. 結果

がんと禁煙支援について原著論文を特定し、最終的に本研究に該当する9文献を採用した。その結果、①患者が禁煙をすることの難しさ、②看護学生の喫煙に関する看護基礎教育の重要性、③禁煙及び禁煙を継続するための看護支援の3要素に集約された。患者が禁煙することの難しさでは、入院中に実施した禁煙率82%に対して退院後1か月では48%、6カ月後では42%と禁煙継続率は低下することが明らかになった。また、がんの治療に関する禁煙指導の必要性については、禁煙に関する基礎看護教育を受けた看護師は必ず禁煙指導を実施していることもわかった。禁煙達成への卒煙証書を進呈するなどの工夫により、本人のQOLや幸福感を高め前向きに自身を捉えることができ、禁煙を継続するための具体的な取り組みが明らかになった。

### IV. 考察

多くのがん患者は一時的に禁煙ができて、禁煙を継続することに難しさがある。ニコチンへの依存を断ち切るには禁煙継続中に起こりうる心身の問題、外部環境の障害、誘惑に対する対処を患者とともに検討しながら、患者のモチベーションを維持し支持的に関わっていくことの重要性が示唆された。また、禁煙継続のセルフケア促進に向けた全人的視点から患者とともに取り組む長期的な支援体制の構築が必要であり、禁煙への動機づけが重要であると考えられる。そのため、看護師は患者の行動変容ステージに合わせて具体的な方法を検討し、患者の主体性を高める支援を継続的にしていく必要がある。

### V. 文献

- 1) 国立がん研究センターがん情報サービス. 科学的根拠に基づくがん予防. 2018
- 2) Inoue.M.et al. 科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究. Ann Oncol. 23(5). 2012